

## 第 42 回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

- |         |           |       |       |              |
|---------|-----------|-------|-------|--------------|
| 1. 実施概要 | 2. 認定点と分布 | 3. 問題 | 4. 総評 | 5. 各問の短評と学習法 |
|---------|-----------|-------|-------|--------------|

### 1. 実施概要

検 定 日：2020 年 12 月 13 日（日）  
検定会場：東京・名古屋・大阪  
検定時間：120 分  
解答形式：論述形式（記述）  
申込人数：44 名  
受検人数：36 名  
認定者数：17 名（認定率 47.2%）

### 2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）  
最高点：17.5 点  
最低点：1 点

### 3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. ICCROM
2. 世界遺産基金
3. アップストリーム・プロセス

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

顕著な普遍的価値                      従来とは異なる新たな破壊の脅威  
教育事業計画                              世界遺産条約履行のための作業指針

3 世界規模の新型コロナウイルスの拡大により、地域間の人の移動が減少したこともあり、外来種などが固有の生態系に与える影響の軽減が見られたとの研究がある。こうした例外を除き、グローバルな人の移動を止めることが困難な現在、外来種の侵入を防ぎ固有種を守るためにどのような方法が考えられるか、具体的な遺産を取り上げながら、1,200 字以内で論じなさい。

### 4. 総 評

今回は数名の受検者を除いて、多くの受検者の解答が同等のレベルにあったと感じる。その中で合否を分けたのは、独自の意見がしっかりと述べられているかどうかであった。特に 3 では、基本的なところで間違っていないけれども、独自の意見が述べられていないものや、他の受検者とは異なる視点が含まれない解答は点数が低くなった。また、今回は 1 でも点数に差が出ていた。各問の短評でも述べるが、ここでは短い文章の中に外すことができない語句を含む必要がある。今回の問題では、内容は間違っていないものの十分な説明とは言えず満点を与えられない解答が多く見られた。最後になるが、いまだに改行や段落分けがないなど、基本的な文章の体裁を成していない解答があるのが残念であった。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「世界遺産基金」ではユネスコの財政規則に基づき設立された信託基金である点と、世界遺産委員会が決定する目的にのみ使用できる点の両方を含む必要がある。どの語句も複数の点が含まれている解答は点数が高くなった。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。今回多かったのは、指定語句である「従来とは異なる新たな破壊の脅威」や「教育事業計画」をただ羅列しただけの解答である。指定語句は羅列するだけでは点数にはならず、どのような点が「新たな破壊の脅威」なのか、「教育事業計画」は何のために必要なのかを書く必要がある。作業指針についても、作業指針が世界遺産条約にとってどのような役割を担うものなのかを書いてある解答は高い点がついた。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回はグローバルな状況下での固有種の保護について論じる問題であった。具体的な遺産として『小笠原諸島』と『ガラパゴス諸島』を挙げるものが多かったが、グリーンアノールやノヤギの名前を列挙するだけの解答も多く見られ、独自の考察が加わっていない点で大きなマイナスはないものの、加点が難しかった。また珍獣のペット飼育と固有種の危機の問題を結びつけるものもあったが、それが固有種の保護にとって何が問題で、どのような対策が可能なかの言及が足りなかった。この問題では具体的に挙げた遺産が抱えている課題と、その遺産に即した解決策を自分なりに考えて解答する必要がある。自然遺産の問題は、一般的な解答になってしまいやすい傾向は理解できるが、そこに少しでも独自の視点があるものは高得点となった。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくとうい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。